

令和6年度公開保育の実施報告

- 1 日 時 令和6年11月1日（金）10時30分から12時
- 2 場 所 認定こども園にこにこ子どもの家 1階保育室
- 3 参加者 評価者5名 園長 副園長 主任2名 副主任1名（担任）
- 4 内 容 「きいろぐみ」1歳児と2歳児の縦割りクラスのお食事の時間に焦点を当てて保育をして、評価をいただいた。

<評価票の結果>

保育を参観していただき評価票に記していただく。その後、園長と副園長、主任、担任を含めて質疑応答の時間を設けた。評価票については5段階評価と自由な記載欄を設けた。

<5段階評価>

評価項目	平均評価点数
園の評価目標が反映されているか	5.0
環境設定は年齢にあったものだったか。	4.8
保育者の声掛け、行動は魅力的だったか。	4.3（未回答2）
保育者同士の連携はできていたか。	4.8
園児は満足感を得ていたか。	3.4（未回答1）
園児は生き生きしていたか。	4.0（未回答1）
園内は保育に適した環境だったか。	4.8

<自由記載について>

- ・食への集中力が素晴らしかった。落ち着いて食事をしていた。
- ・十分におなか为空いているから食欲がわき、毎日の積み重ねがあるからこそ良い姿勢で食器も上手にもって食べられるのだなと感じた。
- ・もう嫌だとなる前にベクトルが目の前の食事に向いていた。
- ・先生が見本というのはいつの世も同じだと思う。一つのテーブルについている先生は食べさせるという援助ではなく食事の進め方を良い方に促す見本である。という視点は素晴らしかった。
- ・先生たちがアイコンタクトしながら子どもたちの見本になるという姿勢での保育が徹底されていて素晴らしかった。
- ・園の保育方針を職員が十分に理解していると思いました。
- ・2歳児がお箸をしっかりと使う姿に驚きました。
- ・机が少し狭いと感じた。肘がぶつかってしまっていたようだ。
- ・保護者向けにも食の保育参観を是非実施してほしい。食器のサイズと手の大きさのマッチングや、お箸の持ち方の指導等ポイントを提示するとより効果的に保育方針が定着すると思う。
- ・保育方針から「自発的に行動する子ども」の自発とは「自分から思い立つ」という意味があります。きいろぐみさんの子どもたちは小さいながらも自分から進んで行動していた。感動した。
- ・各テーブルにおられる先生方が、細かく子どもたちを見守っておられた。子どもたちにすればすぐそば

に先生がいるという安心感がある。それはとても温かい。素敵なことです。

- ・メニューの説明をしてくださっていた。子どもたちはどの程度理解しているのだろうかと感じた。
- ・食器について本物がわかるからこそ偽物がわかる。ということ、子の年齢の子たちの心にしみこみます。
- ・子どもたちからの美味しい。とか全部食べられた。という声が聞かれるのか。アイコンタクトで分かるのか。
- ・評価票については、評価の基準がうまくつかめず未回答にしました。
- ・評価票については、内容に応じて変えていくのも一考だと思います。
- ・活動と給食、給食と午睡準備、午睡からその後の活動等組み合わせて公開すると多面的な姿を見て評価しやすいかもしれない。

<園の自己評価>

・きいろぐみの子どもたちと職員は、参観されていることにやや緊張気味ではあったが、日頃の様子をご覧いただけてよかった。保育者たちは日頃から保育計画を意識し、子どもたちの成長に目配りしながら丁寧な関わりを大切にしている。その成果がうかがえた。

今回は食事の時間に焦点を当てて保育を公開したが、保育理念からその焦点を当てたことにつながる情報提供が少なかったと振り返る。不十分な説明であることで評価しづらい状況を招いてしまった。当園の保育の理念は独特であることをより自覚した上で、伝えるすべを鍛えていきたい。評価票の見直しについては、来年度の課題である。何を覚えてもらいたいのか、どこを評価してもらいたいのかを具体的にしていく。

